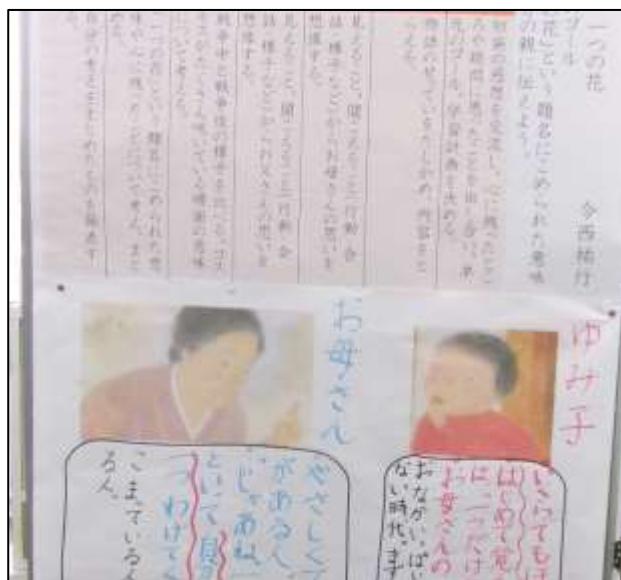


本校では、「熊本の学び推進プラン」に示されている【「熊本の学び」授業実践の7つのチェックリスト】に取り組んで授業改善を行っています。

学期初めと学期末等を実施するなど進捗を常に確認しながら、職員の授業力向上を目指しています。

今回は、4月（年度初め）の結果と1学期末の結果を掲載いたします。

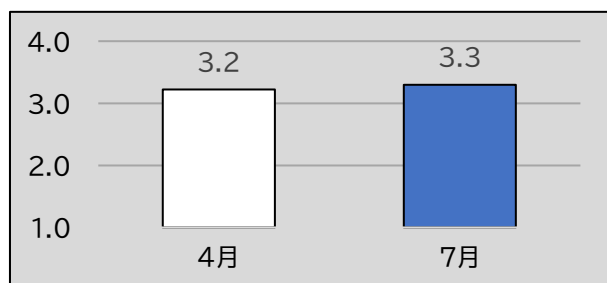
伸びが見られる部分は、更に伸ばし、数値の向上があまりなかったものは、重点指導項目として2学期から力点を置いて授業実践に励みます。



1 日常

(1) 学級づくり

互いに失敗や間違いを認めたり、考えの違いを大切にしたりしている。



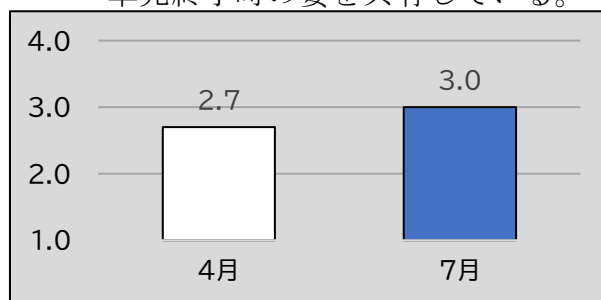
授業改善例

支持的風土の醸成(一人一人の良い点や可能性を認め、ほめ、励ますなど)

2 単元

(1) 単元のゴールの姿

単元終了時の姿を共有している。

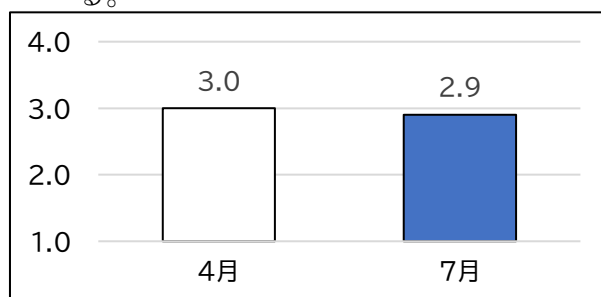


授業改善例

単元のデザイン（どんなことが分かり、できるようになったらいいのか、実生活や次の学びにどう生かすのかを具体的にイメージした指導など）

(2) 全体

「わくわく」など、知的好奇心や興味・関心を高めて学習に取り組んでいる。



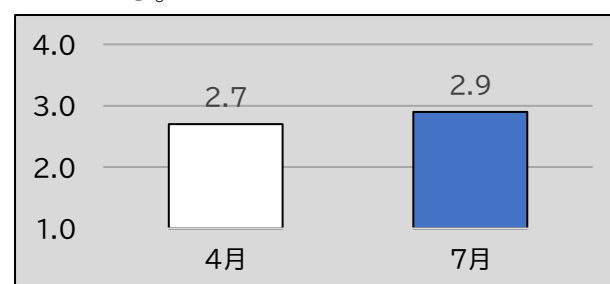
授業改善例

単元を通した学習課題の設定（ゴールの姿を実現させるための学習課題や学習活動など）

3 単元や一単位時間

(1) 導入

「なぜ」「おそらく」など、疑問をもったり予想したりして学習に取り組んでいる。

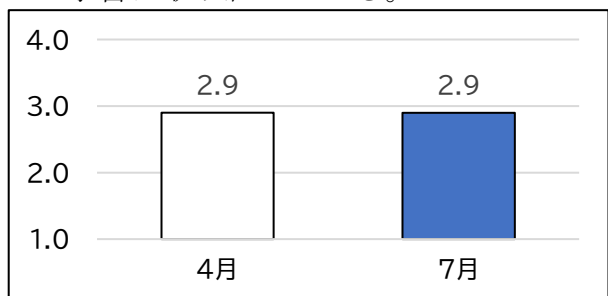


授業改善例

問いを引き出している工夫（言葉かけ、教材提示学習課題 など）

(2) 展開

「やってみよう」「なるほど」「きっと」など、挑戦したり納得したりして学習に取り組んでいる。

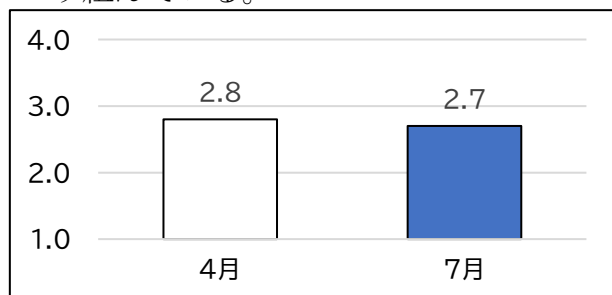


授業改善例

積極的なコーディネート（考える場面と対話し、協働して問題を解決する場面の組み立てや対話や協働場面での働きかけなど

(3) 終末

「分かった」「できた」「もっとやってみよう」など、実感や達成感を得たり更なる意欲を高めたりして学習に取り組んでいる。

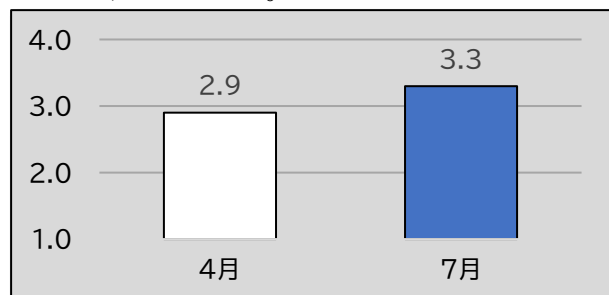


授業改善例

学習内容と学習状況をまとめ・振り返り（「めあて」や「学習評価」との整合性や「振り返るポイント」など）

(4) 個に応じた指導

自分の習熟度に合った課題などに取り組んでいる。



授業改善例

児童生徒の実態を踏まえた個に応じた指導（補充的な学習や発展的な学習など）



1学期で伸びが見られた項目

- 1日常の(1)学級づくり(+0.1)
互いに失敗や間違いを認めたり、考えの違いを大切にしたりするなど学級の雰囲気良くなって、学びやすい学級の風土ができてきた。
- 2単元の(1)単元のゴールの姿(+0.3)
教師と児童が単元後のゴールの姿を毎時間確認するとともに、その過程においてもゴールへ向かう見通しをもつことができた。
- 3単元や一単位時間の(1)導入(+0.2)
児童の学習意欲を喚起したり、問いを引き出そうとする工夫ができるようになってきた。
- 3単元や一単位時間の(4)個に応じた指導(+0.4)
児童の学びの状況に応じた課題を提供するなど、一人一人の学びを保証しながら授業を展開することができた。

1学期で伸びが見られなかった項目

- 単元の(2)全体(-0.1)
2学期以降は、授業デザインや発問・指示についてさらに研究を深め、児童が「わくわく」など、知的好奇心や興味・関心を高めて学習に取り組む授業展開を工夫したい。
- 3単元や一単位時間の(3)終末(-0.1)
学習内容と学習状況をまとめ・振り返りを確実に実施し、分かったことや感じたことを言葉でアウトプットさせる。